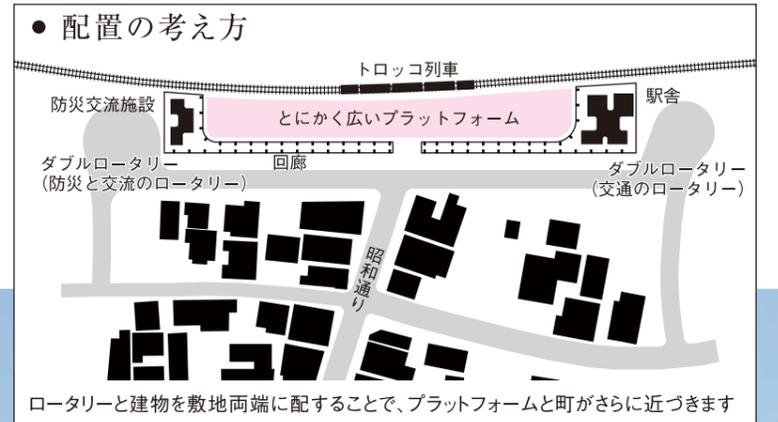
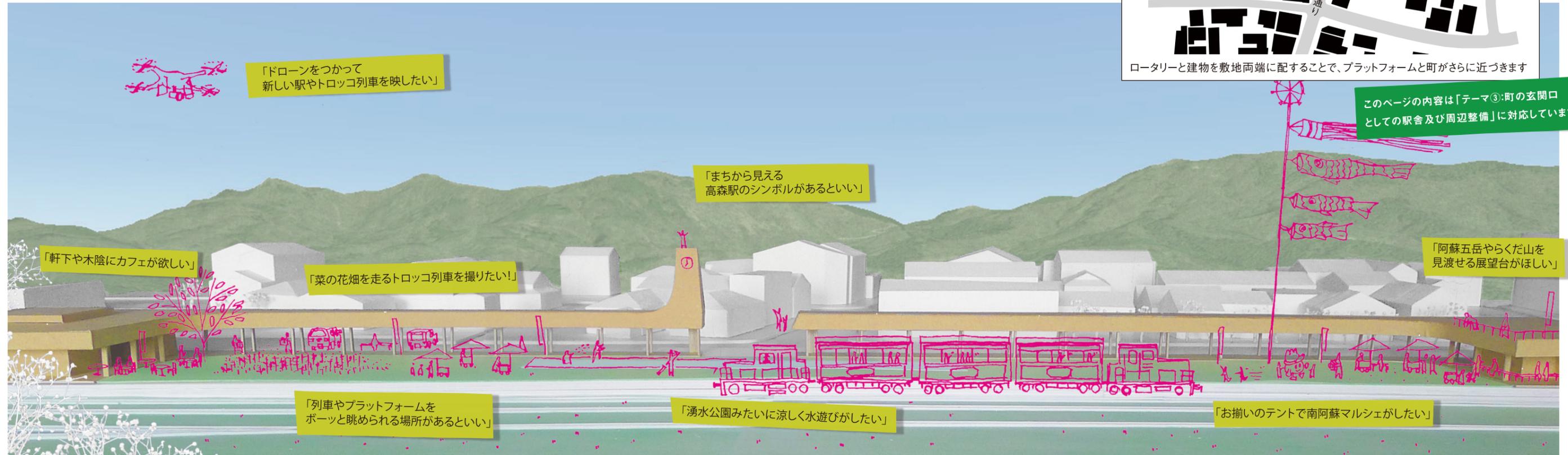


南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザインに係る公募型プロポーザル

「とにかく広いプラットフォーム」が高森の玄関口です

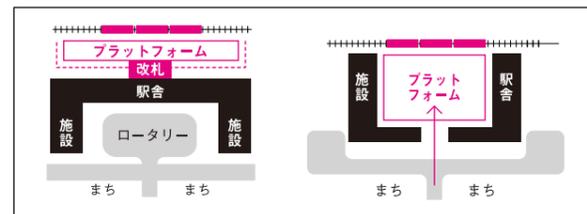
高森駅でしかできない壮大な計画が可能です。  
それは120m×16mの「とにかく広いプラットフォーム」を出発点とする計画です。  
このプラットフォームで始まる変化が、町に自然に染み渡っていくように、  
私たちは町と駅を今まで以上に近づけることを提案します。



なぜ「とにかく広いプラットフォーム」\*なのでしょうか?

理由1:町と駅を近づけるため

一般的な駅構造ではロータリーと駅舎の奥に隠れてしまいうプラットフォームを、もっと町に近づけたいと私たちは考えました。高森のシンボルは駅舎ではなく、美しい沿線風景を見に来る人々で賑わい、個性豊かな車両が発着するプラットフォームであってほしいからです。そして、車内改札方式によって改札口を持たない高森駅だからこそ、プラットフォームと町が連続する駅構造を採用できることに私たちは気が付きました。



一般的な駅構造(左)と高森駅の駅構造(右)

理由2:夕焼けを見るため

プラットフォームと町が連続すれば、プラットフォームの西側に広がる阿蘇平野の風景が今よりも身近になります。何よりも、浜辺のように広々としたプラットフォームから見る夕焼けは壮大なものとなり、町の皆さんのお気に入りの集まりの場となります。世界には西向きに浜辺に起終点駅を持つ都市がいくつかありますが、高森駅もそれに負けない美しい駅になります。



西向きの起終点駅の例:アデレード(左)とルアーブル(右)

理由3:トロッコ列車の体験を豊かにするため

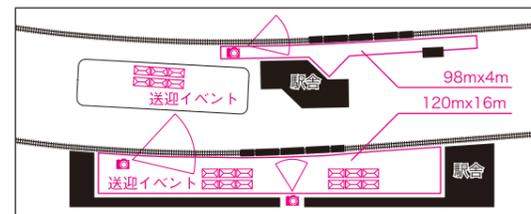
改札口のない車内改札方式はトロッコ列車を持つ他の路線と比べてもユニークな特徴です。これにより、①駅舎内で改札開始を待つ必要がなく、②眺めの良いプラットフォームでの滞在時間を長くできる、③送迎客など誰もが列車に近づける、などの利点が生まれています。ただ、現在の高森駅は一般的な駅構造のため、この利点が十分には活かされていません。

路線	距離	駅数	改札方式
嵯峨野観光鉄道 (京都)	7.3km	4 駅	駅改札口
わたらせ渓谷鐵道 (群馬・栃木)	44.1km	17 駅	車内改札
小湊鐵道 里山トロッコ (千葉)	9.2km	4 駅	駅改札口
黒部峡谷鐵道 (富山)	20.1km	10 駅	駅改札口
門司港レトロ観光線 (福岡)	2.1km	4 駅	駅改札口
南阿蘇鉄道高森線 (熊本)	17.7km	10 駅	車内改札

国内の主なトロッコ列車の改札方法

理由4:プラットフォームの旅のため

広大なプラットフォームは、トロッコ列車の体験を豊かにします。①阿蘇五岳と列車のツーショットが撮影でき、③列車全景・乗車風景を撮影する引きも十分に取ることも可能です。③送迎イベントを降車直後から、又は乗車直前まで楽しめるのも観光客には嬉しいでしょう。何よりも、そうした④嬉しい風景をプラットフォームに居合わせた誰もが楽しむことができるのです。



高森駅の現状(上)と新しいプラットフォーム(下)の比較

\*軌道法軌道建設規程第18条においてプラットフォームの下限は1.5m(片面)と定められていますが上限の規定はありません

理由4:プラットフォームの旅のため

最後の理由は南阿蘇鉄道全線に関連するものです。トロッコ列車の最大の魅力は阿蘇五岳・外輪山・渓谷を眺める車窓風景ですが、カフェ、本屋、温泉などを併設する個性豊かな駅舎のプラットフォームでの駅世話人たちとの交流も大きな魅力となっています。言わばトロッコ列車の旅はプラットフォームの旅なのです。起終点高森駅は、その旅のハイライトとなるのです。



トロッコ列車の旅はプラットフォームの旅

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザインに係る公募型プロポーザル

とにかく広いプラットフォームを囲む建築のあり方を考えます

●とにかく広いプラットフォームを囲む回廊

プラットフォームをぐるりと囲むように回廊を配し、その北側に駅舎、南側に防災交流施設を設置します。**回廊・はなれ回廊のすぐ背後に駐車スペースを設けているため、キッチンカーの出店等回廊とセットにしたイベント活用が可能です。また、災害時の車中泊を想定し、回廊をリビングスペースとして過ごせるよう、プライバシーの確保や電源の供給等を行える設備を整えます。**

●敷地両端に配置する「ダブルロータリー」

コミュニティバスや自家用車が乗り入れる「交通のロータリー」、観光バスが乗り入れ、災害時には救援物資の受取場所になる「防災と交流のロータリー」、**機能の異なる二つのロータリーを敷地両端に設けることで、日常時・非常時とも混乱なく利用できます。**また、ロータリー間の敷地内車路は、イベント時には歩行者に開放し、プラットフォームと並ぶ長い広場として利用可能です。

●炊き出し場にもなる「まちキッチン」

防災交流施設には、災害時に炊き出し場となる「まちキッチン」を設置します。普段は、ランチを食べに来たり、お茶を飲みに来たりなど、町の皆さんの日常的な集いの場になるでしょう。**普段使いが災害に対する何よりの準備**となります。

●プラットフォームを見渡せる縁側

建物の周りに縁側を張り巡らせます。カフェで買ったコーヒーを飲んだり、次の電車を待ちながら本を読んだり、**町民が気軽に利用できる小さなパブリックスペース**です。

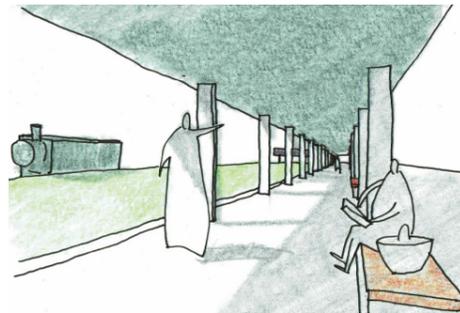
●プラットフォームの舞台演出のための様々な仕掛け

周辺の風景を見渡せる2F展望デッキ、列車の到着を眺められるカフェ、列車や夕陽などを映し出す水盤など、**プラットフォームを舞台として演出する仕掛け**を至る所に散りばめます。

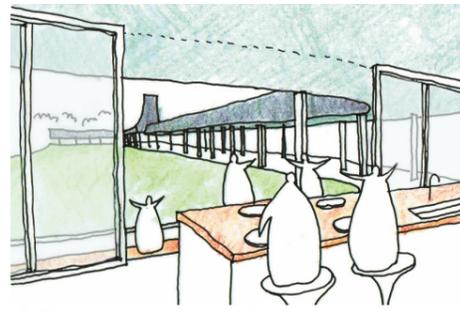
●プラットフォームとの一体感を生む軌道緑化

●阿蘇の地産材を活用した、木の景観づくり

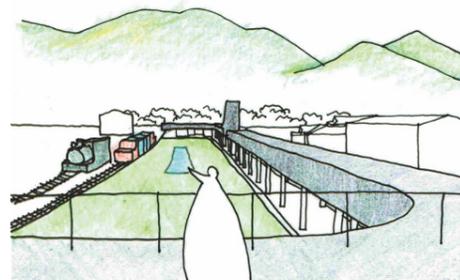
●ランドマークである塔の継承



一人たらず居場所も点在する回廊

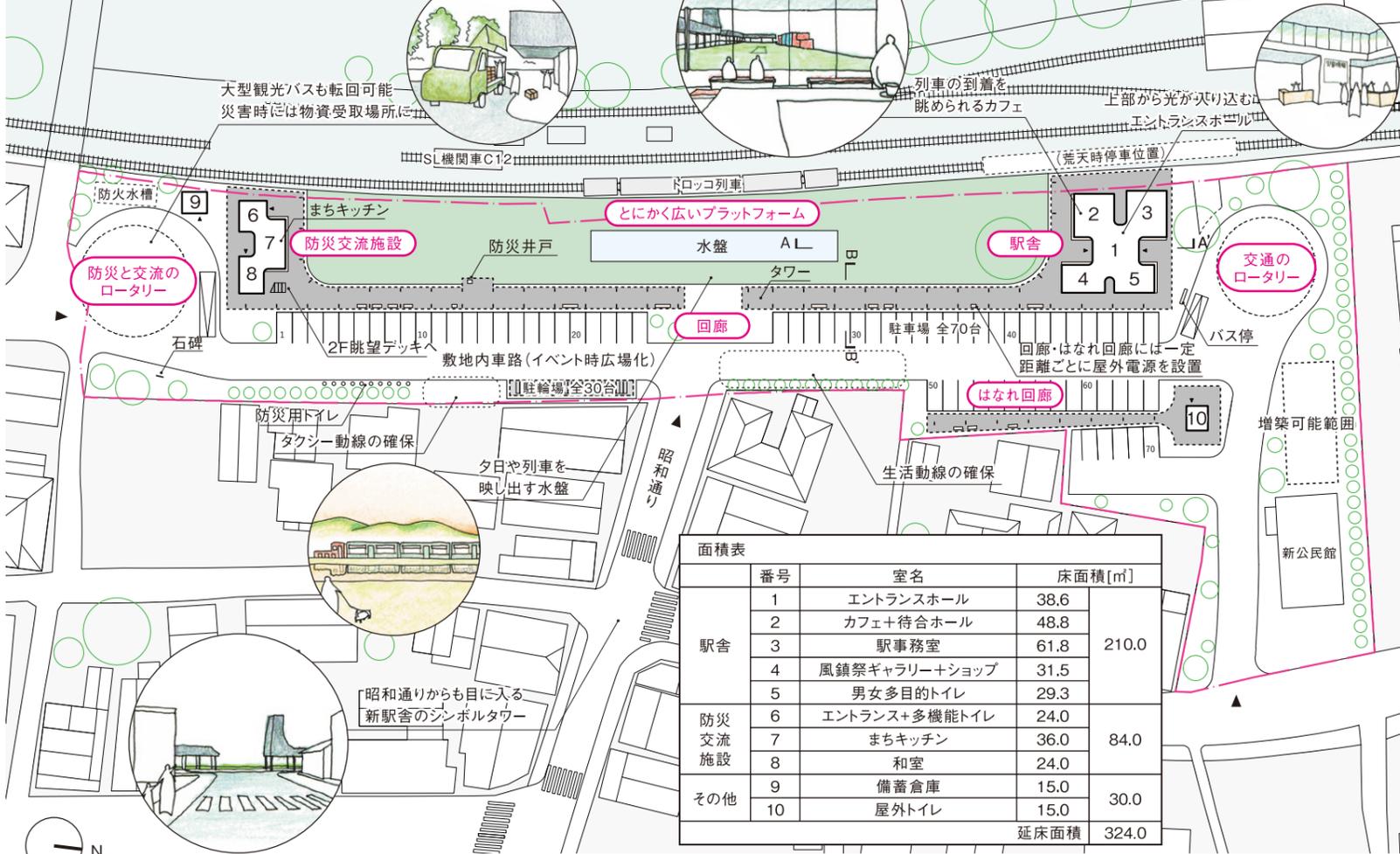


町民の集いの場となる「まちキッチン」



周辺の風景を一望する2F眺望デッキ

「テーマ③:町の玄関口としての駅舎及び周辺整備」の内容に対応しています



面積表			
番号	室名	床面積[m <sup>2</sup> ]	
駅舎	1 エントランスホール	38.6	210.0
	2 カフェ+待合ホール	48.8	
	3 駅事務室	61.8	
	4 風鎮祭ギャラリー+ショップ	31.5	
	5 男女多目的トイレ	29.3	
防災交流施設	6 エントランス+多機能トイレ	24.0	84.0
	7 まちキッチン	36.0	
その他	8 和室	24.0	30.0
	9 備蓄倉庫	15.0	
	10 屋外トイレ	15.0	
		延床面積	324.0

配置図 S=1:1000

阿蘇の風土を活かした施設を目指します

「テーマ⑤:ユニバーサルデザイン・環境・省エネ・コスト」の内容に対応しています

●微地形を活かした回廊によるバリアフリーな計画

敷地南北200mでおおよそ2mある高低差を、回廊内に適宜スロープを設けながら、つないでいきます。**長い回廊があってこそバリアフリーな計画**です。

●規格木材利用によるイニシャルコスト抑制

回廊の列柱や、建物の構造躯体に一般流通木材を積極的に利用することで、建設費の増額を防ぎます。木材には地産材を用い、地場産業の活性化に貢献します。

●透水性舗装による熱環境の改善

敷地内の車道や駐車場に**透水性舗装**を採用することで、大雨時の下水処理施設への負担を軽減するとともに、地表部分の温度を下げ、**ヒートアイランド現象の抑制を図ります。**



風薫る回廊の縁側空間



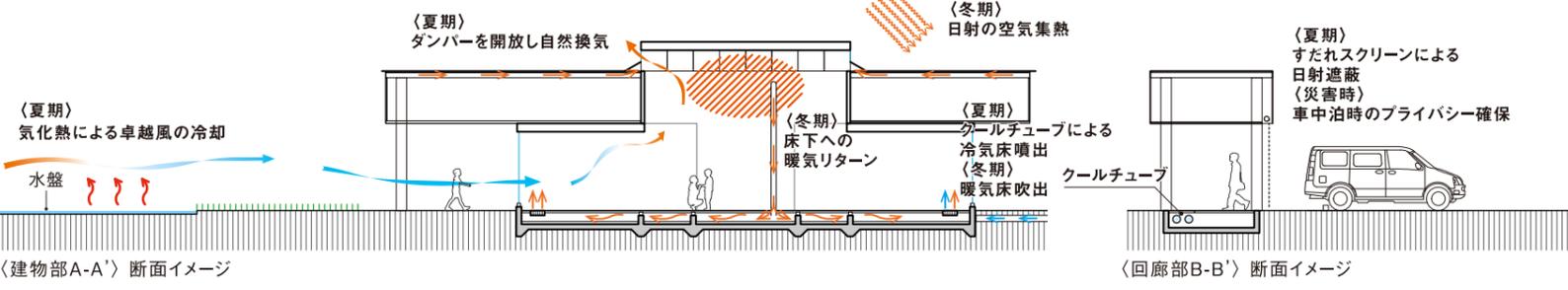
車中泊に対応する回廊

●南からの卓越風を活用した自然換気<夏期>

プラットフォーム中央に水盤を設置し、**卓越風を水の気化熱で冷却して建物内に取り込みます。**建物内に取り込んだ自然風は、上部のダンパーを開放して排気します。冷房負荷低減とともに、自然換気による心地よい室内空間を実現します。

●深い軒とすだれスクリーンによる日射遮蔽<夏期>

熱的影響が大きくなる建物の南側や西側には、**回廊の深い軒とすだれスクリーンによって、室内への直射日光を遮ります。**すだれスクリーンは、災害時、車中泊避難者のプライバシー確保にも役立ちます。



●阿蘇の伏流水を活用したクールチューブ<夏期>

阿蘇外輪山から流れる**豊富な伏流水**を活用し、回廊に沿って設置したクールチューブによって安定した冷気を室内に供給します。

●空気集熱による暖気床吹出<冬期>

建物の広い屋根面を活用し、日射の空気集熱を行い、暖気を建物内に取り込みます。建物上部からリターンダクトにより床下へと送り、床下の蓄熱層を暖めます。そして、**ペリメーターゾーン付近の床吹出口から安定した暖気を室内に送り、コールドドラフトを防ぎます。**

（夏期）すだれスクリーンによる日射遮蔽（災害時）車中泊時のプライバシー確保

（回廊部B-B'）断面イメージ

南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発ランドデザインに係る公募型プロポーザル

このページの内容は「テーマ④:みんなで考えるまちづくりを実現するための手法」に対応しています

5回のワークショップを通してランドデザインを育てます

ランドデザイン業務で検討すべき内容は、①土地利用に関する強固なコンセプト、②質の高いアーバンデザインを実現するランドスケープと建築の方針、③運営面・予算面から見た実現可能性、④まちづくりビジョンとしての共有可能性だと考えます。  
これらを町の皆さんと詳しく検討するために、私たちは模型を使ったワークショップを5回行いたいと考えています。また、次年度からの「みんなで考えるまちづくり」に備え、ランドデザインの内容をムービーにまとめ、公開します。

業務内容、ワークショップの詳細な実施方法については関係者協議で詰めていきます

ワークショップの方法について

敷地の特徴と可能性をアーバンスケールで捉えるために敷地周辺の模型を製作し、付箋を使ったアイデア出しをしたり、複数のランドスケープ、建築案を比較したりします。縮尺は鉄道模型用の点景を活用できる1/150とします。



1/150の敷地周辺模型



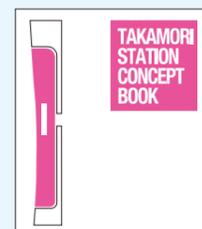
付箋を使ったアイデア出し

ランドデザイン策定業務				スケジュール										
検討テーマ	検討方法	主な検討内容	備考	2018年9月	10月	11月	12月	2019年1月	2月	3月	4月			
①土地利用のコンセプト	・コンセプトの強化	事業関係者との協議	・景観計画など上位・関連計画との整合 ・鉄道技術基準との照合 ・活性化協議会・駅話話人からのヒアリング											
	・観光拠点化について	第1回ワークショップ (10月下旬)	・車窓体験の充実 ・プラットフォームのイベント活用 ・交流エリアでの体験イベント活用											
	・防災拠点化について	第2回ワークショップ (11月中旬)	・ダブルロータリーによる防災対応 ・車中泊対応のあり方 ・福祉避難所とまちキッチン											
	・地域公共交通網の拠点化について	事業関係者との協議	・南阿蘇鉄道株式会社からの意見聴取 ・産交バス等の交通事業者からの意見聴取 ・レンタサイクルの利用実態の把握											
②アーバンデザイン	・ランドスケープ計画	第3回ワークショップ (12月中旬)	・土地利用計画 ・植栽計画 ・アートおよび照明計画											
	・建築配置計画	第4回ワークショップ (1月上旬)	・プラットフォームとの関係の整理 ・展望台・縁側など眺望点の整理 ・駅舎と交流エリアの使い方の整理											
	・交通計画・設備計画	事業関係者との協議	・ダブルロータリーと駐車場の規模算定 ・敷地内道路の線形の決定 ・防災関連設備の整備計画											
③運営・コスト	・施設のマネジメント計画	第5回ワークショップ (1月下旬～2月上旬)	・プラットフォームのマネジメント手法 ・駅舎・交流施設のマネジメント手法 ・関連イベント・沿線駅との連動手法											
	・コスト計画	事業関係者との協議	・基盤整備工事の概算 ・ランドスケープ工事の概算 ・建築工事の概算											
④ビジョン共有	・コンセプトムービー作成	—	・ストーリー・表現手法 ・入力データの収集と加工 ・共有手法											
	・WEBおよび報告書作成	—	・報告書の内容・目次 ・調査項目の選定と分析手法											
<input type="checkbox"/> 町の皆さんと特に考えたい項目														
				業務開始										
							中間報告							
									最終報告					
												新年度		

成果物1: 報告書について

報告書は次年度以降のまちづくりの礎となる大切な文書です。ワークショップを通して育て上げたランドデザインを「コンセプトブック」として美しくデザインすることで、可能な限り多くの高森町の皆さんに読んでいただき、次年度以降のプロジェクトに繋がりたいと思います。また、高森駅周辺の再開発の意義を確かに把握するた

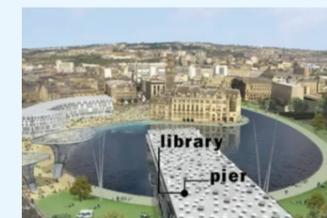
めにも、国内外のベストプラクティスを紹介し、その知見を基本設計に役立てます。特に公共空間のマネジメント手法や沿線景観の修景など、高森町および南阿蘇鉄道沿線に長期的な視座を与えるであろう事例を紹介いたします。



コンセプトブック

成果物2: ムービーについて

まちづくりのコンセプトをムービーで表現し、学校や映画館での上映を通して市民の理解促進とシビックプライド醸成に活用した事例が存在します。本業務でも、ランドデザインの内容をムービーにまとめて公開し、今後のまちづくりへの参加を呼びかけます。



ムービーの事例:ブラッドフォード(左)とバルセロナ(右)



# 南阿蘇鉄道高森駅周辺再開発グランドデザインに係る公募型プロポーザル

## 紙上模擬ワークショップ「第1回:観光拠点化について」

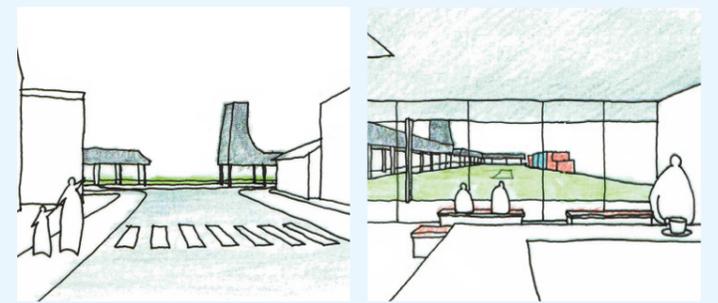
「とにかく広いプラットフォーム」の使い方は無限大です。  
 第1回目のワークショップでは、この広いプラットフォームと、それを取り囲む建築・回廊をどのように使うかをグループワークをしながら考えます。  
 この時、①観光についてのアイデアを募るだけでなく、②子育て・地域交流・定住の観点など、自分が何をしたいかについてもアイデアを出していただきます。他の駅のプラットフォームや湧水トンネル公園との連動についてのアイデアも大歓迎です。

このページの内容は「テーマ①:南阿蘇鉄道沿線地域のまちづくり戦略としての観光拠点化について」の内容に対応しています

- 町の皆さんと考えてみたい点
- A. 自分だったら「とにかく広いプラットフォーム」でどんな体験をしたいですか?
  - B. 観光客に「とにかく広いプラットフォーム」でどんな体験をしてみらうのが良いですか?
  - C. 建築や回廊を使ってどんな楽しいことができるでしょうか?
  - D. 展望台をつかった場合、どこかの眺めが良いですか?

## 「観光拠点化」についてランドスケープと建築で想定している点

- ランドスケープ
- 町のシンボルとなっている塔の踏襲(左)
  - 降車時はらくだ山を、乗車時は列車を、夕刻には夕陽を映し出す水盤の設置
  - プラットフォームと一体となって草原の中に着いたように感じられる軌道緑化
- 建築
- 列車の到着を眺められるカフェの設置(右)
  - まちキッチンを中心とした交流スペース
  - 阿蘇五岳を見渡せる2階の展望台
  - 地産材利用による「木による景観づくり」



シンボルの塔の踏襲

列車を眺めるカフェ

MT-2000 形気動車  
 国鉄 C12 形蒸気機関車  
 トロッコ列車

備蓄倉庫  
 防災交流施設  
 南阿蘇マルシェ  
 まちキッチン  
 防災と交流のロータリー  
 観光バス  
 2F 展望台へ  
 回廊  
 駐輪場  
 はなれ回廊  
 屋外トイレ

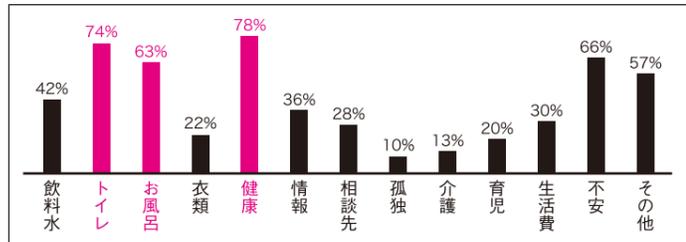
記念撮影  
 水盤  
 花畑  
 南阿蘇マルシェ  
 ピクニック  
 屋外テラス  
 カフェ  
 事務所  
 トイレ  
 風鎖祭ギャラリー+ショップ  
 バス停  
 交流のロータリー

手書きのアイデア:

- D. 「この辺りからならトロッコも山も見渡せそう」
- B. 「いろいろな種類の列車が一齐にお出迎えしたらインスタ映えしそう」
- B. 「水盤にトロッコが映って綺麗だね」
- B. 「お花畑とトロッコ列車はとっても絵になるわ」
- A. 「トロッコとかけてこ!!」
- C. 「毎月一回はまちキッチンに集まって何かつくったら素敵」
- B. 「マルキチの醤油アイスを食べてほしい」
- B. 「ながーい回廊でみんなの写真展をしてみたい」
- B. 「レンタサイクルがあると便利」
- A. 「TAKARA MORIが近いね」
- B. 「オートキャンプもできるかなあ」
- オールキャスト車両展示  
C12型・トロッコ・ラッピングカーまで一同揃い踏みの展示をします
- 花畑  
思わず写真に撮りたくなるプラットフォームです
- お誕生日会  
まちキッチンと和室を使って毎週末誕生日を迎えた子どもたちをお祝いします
- 夕焼けの見えるプラットフォーム  
サンセットビーチのようなドラマチックな場所に
- 大綱引き大会  
プラットフォームの長さを活かしたイベントを開催します

# 紙上模擬ワークショップ「第2回:防災拠点化について」

第2回目のワークショップでは防災面、特に熊本地震で大きく取り上げられた車中泊への対応、例えば下図のような課題に応えることができるかについて考えます。



熊本地震の車中避難生活で困ったこと/「よか隊ネット」の実態調査(2016)

町の皆さんと考えてみたい点

- A. 発災時に最もあって欲しい設備は何ですか?
- B. 回廊を車中泊対応とした場合、  
どういう設備が必要だと思いますか?
- C. 「とにかく広いプラットフォーム」は  
防災にどのように使われると思いますか?
- D. まちキッチンと福祉避難所には  
どういう設備が必要だと思いますか?

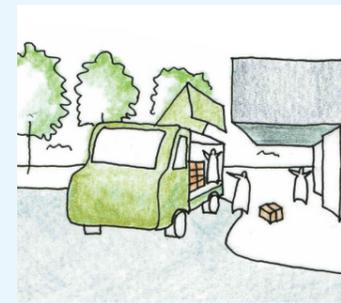
## 「防災拠点化」についてランドスケープと建築で想定している点

ランドスケープ

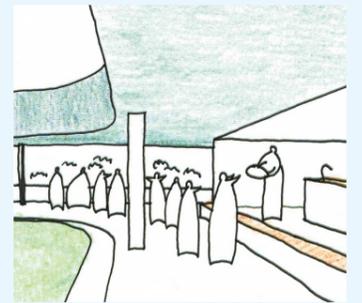
- 駅の交通動線と輻輳がないよう、防災のロータリーを別途整備する(左)
- 水盤周辺は緊急車両の荷重に備えた構造しておく
- 防災井戸の整備

建築

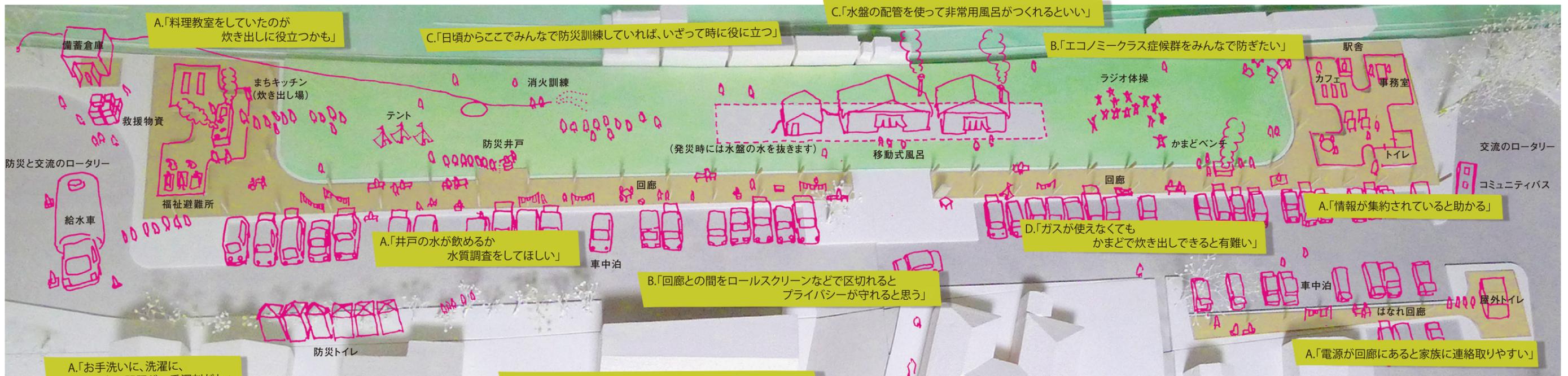
- 回廊を中心とした車中泊への対応
- バリアフリーの福祉避難所としての整備
- 炊き出し可能なまちキッチンの整備(右)
- 非常用電源・災害用トイレの整備



防災のロータリーの分離



まちキッチンでの炊き出し



## 防災の文化を町中に広げる

日本で初めて車中泊に対応する高森駅の防災拠点は、新しい時代の防災のあり方を考える実験場です。ここで試した実験が町中の防災拠点に広がるような、そんな空間の作り方・使い方を町の皆さんと考えていきたいと思っています。

